

は、各々の個人やグループが主体的に選択して行うこととなりますが、「5類」に移行しても新型コロナウイルスの感染力や病原性が変わるわけではありません。

町といたしましては、移行までの間、引き続き、地域住民の皆様をはじめ、事業者皆様のご協力のもと、関係機関とも連携し、感染予防や対策に取り組んでいくとともに、移行後の自主的な感染対策について、必要となる情報提供を行ってまいりますので、ご理解並びにご協力をお願い申し上げます。

次に、2月6日にトルコ南部のシリア国境近くで発生した大地震により、多くの犠牲者と甚大な被害が生じております。この場をお借りしまして、お亡くなりになられた方々に深く哀悼の意を表しますとともに、そのご家族の方、そして被災された方々に、心よりお

見舞い申し上げます。また、過酷な環境下において救援、支援活動を展開している方々の勇氣に敬意を表し、1日も早い復旧、復興を心からお祈りしております。

東日本大震災から12年が経とうとしている今、当町においても、いつ起こるか分からない自然災害への備えを万全にするとともに、万一発生した場合でも、自助、共助、公助とそれぞれの段階において、町と住民自治会、並びに関係機関が連携し、一体となって、町民皆様の生命と財産を守る所存でありますので、議員皆様にもご理解並びにご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、平成27年度からスタートいたしました「第5期奥多摩町長期総合計画」では、豊かな山々と清流の中で自然と共生する町におきまして、多くの魅力に包まれた、住む人と訪れる人

が癒され、子どもからお年寄りまで、生涯を健康で安心して暮らせるまちづくりを推進しております。その中でも過疎化が進行する町において、最も大きな課題である人口減少への取り組みとして、少子化対策と定住化対策を「奥多摩創造プロジェクト」に位置付け、重点的に、また、積極的に推進しており、これまでの各種施策により人口減少のスピードは緩やかになっておりますが、引き続き、厳しい状況にあることは認識しなければなりません。



▶ 昨年子育て応援住宅に入居した近平様ご家族

この「奥多摩創造プロジェクト」では、活力ある地域づくりのため、少子化対策の推進として、出会い・暮らし、子育て・教育の分野を、また、住みたい方が住める町を築くための定住化対策として、仕事、住まいの分野を推進することとしております。これらの対策は、過疎化による人口減少、少子高齢化が進む町において、高齢化対策や地域コミュニティの活性化にもつながるものであり、高齢化率が50%を超える状況となっている中、地域コミュニ



▶ 令和5年3月に完成した子育て応援住宅（小丹波）

二ティ力が低下しつつある地域も見られる町において、今後も重点的に推進すべき取組のひとつであると考えております。一方、近年、町内在住の高校生、大学生がスポーツの分野で、輝かしい成績を収め、強化選手に指定されるなど、明るい話題を届けていただいております。今後の更なる活躍を大いに期待しているところであります。また、これからも素晴らしい人材が輩出されるよう、町といたしましても支援等してまいりたいと考えております。



▶ 2022カヌースラロームジャパンカップ最終戦で優勝された、禰寝大亮君（境在住・大学1年生）